

林業技術センター  
普及班便り  
(第12回目)

# あなたの山づくりを応援する林業普及

## 【いわての林業経営者 その3】

### ◆畑わさび栽培の『微笑』

#### 一 はじめに

今回は、畑わさび栽培に取り組み岩泉町の川端光江さんをご紹介します。

#### 二 人物紹介

##### 【プロフィール】

川端さんは、5人兄弟の3女として田野畑村に生まれ、中学卒業と同時に集団就職で静岡県紡績工場に就職、働きながら定時制高校を卒業しました。根っからの働き者で努力家。縁があつて岩泉町の清人さんのもとに嫁がれ、清人さんが森林組合作業班として働き、光江さんは短角牛の繁殖と肥育を担当、多い時は50頭をも飼育し、子育てと仕事に大変な時期もあつたと当時を振り返っていました。その後畜産をめぐる情勢の変化もあり、農林業収入の確保を図ろうと取り入れた作物が「畑わさび」でした。

所属する岩泉わさび出荷組合の組合員は49歳から83歳までの16名で、光江さんは唯一の女性組合員で一番若い。働くばかりではなく、手芸の

カゴ作り、冬には自宅をイルミネーションで飾って楽しむなど、芸術的な美のセンスも旺盛です。あまりにも清々しいゆえに、岩泉版『モナリザの微笑』として「全国農業共済新聞」・県「農業普及」誌など相次いで記事となるほどです。



川端光江さん「微笑」

#### 三 経営内容

##### (1) 畑わさび栽培が経営の柱に

畑わさび栽培は18年前の平成2年から始めました。清人さんが森林組合作業班から会社員に転職したため、栽培作業は光江さんが主体で始めたそうです。当初は、5坪の畑に2,000本を植栽、5年後に短角牛飼育を完

全に止めて、畑わさび栽培を中心とした農林業経営に移行し、今では、栽培面積を4畝まで拡大しています。栽培面積拡大と共に、作業繁忙期は3〜4人を雇用し、ここ数年、年間20〜30ト、多い年で40トを生産しているそうです。畑わさび栽培の『微笑』も浮ぶはずです。

##### (2) 経営コスト軽減の取組みが認められる

川端さんは、限られた労力でいかに収益を向上させるかについて、常日頃考えていると話しています。栽培に不可欠な苗の生産を自給に切り替え、その苗作り技術も自分の努力で開拓。それらの取組みが認められて夫婦で認定農業者に登録されて「女性認定農業者」となったとのこと。

##### (3) 助け合いの中から

昨年、組合員が体調を崩し、その組合員を助けようと、仲間を手伝ったそうです。それは、体調を崩した本人のために手伝ったことは勿論のことですが、決められた量を出荷する「義務を果たす」こと、市場の安定にもつながること、組合員同士で助け合うのはあたりまえのことと話されています。

##### (4) 技術の研鑽

畑わさび生産量では、岩泉町が町として『日本一』だということがあまり知られていないことを残念に思っていたそうです。そのため、岩泉町の畑わさびを全国に知ってもらいたいと、自らその腕を磨き、品評会等へ出品した際には上位入賞を果たすようになりました。自分の技術向上は皆の技術向上につながると思っています。

経営も安定し、今までは光江さんが中心に栽培を行って来ましたが清人さんも本格的に参入、これからは手を取り助け合つて『おしどり栽培』に取り組んでいるとのこと。



経営する畑わさび栽培畑

林業技術センター普及班